

コマレ

## 暮らしを物語る広告

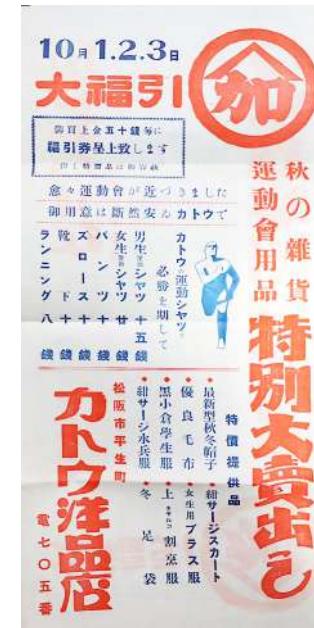
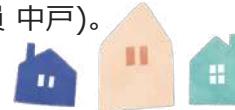
ひきふだ

引札は現在のチラシに相当する一枚折りの広告で、江戸時代中期以後に登場します。これらは、開店や大売出しなどの宣伝、年末年始の挨拶のために商店の得意客に配られました。

明治29年(1896)発行の酒肴 辻村金次郎(垣鼻)の引札には、煙を上げて走る蒸気機関車が描かれています。明治に入ると国内にも鉄道が敷設されますが、26年の参宮鉄道津・宮川間の路線開通により松阪にも駅が設置されており、最新の話題を取り入れることで広告効果を高めています。引札のなかでも多色刷りの広告は「絵びら」と呼ばれ、明治・大正期に盛んに製作されました。「絵びら」は色彩や絵柄が華やかなために重宝され、各家の壁や風呂屋など的人が集まる場所に長期間貼り置かれることからも、多くの人の注目を集めやすかったと思われます。ちなみに、このような「絵びら」は絵柄部分を先折りし、白抜き部分に後から商品名・住所・店名などを入れる「名入れ」の方法で製作されたものが多く見られます。

昭和前期のカトウ洋品店(平生町)のチラシは、「秋の雑貨 運動会用品特別大賣出し」の大きな見出しや「運動シャツ」やパンツなど体操着の特別なラインナップが目を引きます。この洋品店のチラシからは、単に商品の情報だけでなく、学校の運動会シーズンに合わせて、地域の商店の大売しが開催されていたという当時の人々の生活を読み取ることができます。

旧小津清左衛門家では、次回企画展として「松阪廣告百景」(8/5(火)~9/28(日))を開催します。人々の暮らしとともにあり、人々の記憶に残る様々な広告をお楽しみいただければ幸いです(学芸員 中戸)。



カトウ洋品店のチラシ



酒肴 辻村金次郎の「絵びら」



## 歴史文化3施設のご案内

### 【開館時間】

9:00~17:00 (16:30までにご入館ください)

### 【休館】

水曜日(祝日の場合は翌平日)／年末・年始

発行 NPO法人松阪歴史文化舎  
〒515-0082 松阪市魚町1653

Phone 0598-21-8600 (事務所)  
E-mail info@rekishibunkasha.onmicrosoft.com

### 【連絡先】

◆旧長谷川治郎兵衛家

Phone : 0598-21-8600

◆旧小津清左衛門家

Phone : 0598-21-4331

◆原田二郎旧宅

Phone : 0598-23-1656



2025

夏号

# まつさか歴史文化かわら版

No.26



蝉時雨が降り注ぎ、いよいよ夏本番。松阪のまちは、年に一度の熱い祭りに沸き立ちます。

今回の表紙を飾るのは、松阪の夏の風物詩、松阪祇園祭の一コマ、国の重要文化財である旧長谷川治郎兵衛家の前を御神輿が通り過ぎる瞬間です。商家として栄えた歴史ある建物の前で、祭りの熱気が最高潮に達するこの光景は、訪れる人々をタイムスリップしたかのような感覚に誘い、松阪ならではの歴史と文化の魅力を存分に感じさせてくれます。

このまつりは、江戸時代から続く伝統あるお祭り。毎年、力強い掛け声とともに練り歩く御神輿が、城下町の風情を残す松阪のまちなかを一層活気づかせます。

本号では、旧長谷川治郎兵衛家をはじめ、旧小津清左衛門家、原田二郎旧宅といった歴史的建造物で開催されている企画展やイベント、日々の活動の様子を紹介します。地域の宝である伝統と文化が息づく松阪へ、ぜひ足をお運びください。





展示案内

## 旧長谷川治郎兵衛家

長谷川家に伝わる江戸時代の摺り物  
4月8日(火)～7月6日(日)

長谷川家には、江戸時代の出版物や御札など様々な摺り物が伝えられています。本企画展では、多種多様な出版物や版元が松阪の稀書、長谷川家が製作した版木によって摺られた御札などを展示し、こうした摺り物から、長谷川家の趣味教養や家内安全などの想いを紹介します。



【火用心版木】文政13年(1830)

長谷川家所蔵の扇や団扇、またそれらを意匠に取り入れた品々を紹介します。多彩な美しさに触れながら、目にも涼しいひとときをお楽しみください。

【学芸員による展示解説】  
8/2(土)、9/6(土)  
11時より20分程度



【御所解模様打掛】大正頃

## 旧小津清左衛門家

没後230年記念展 書家韓天寿  
5月20日(火)～8月3日(日)

韓天寿(1727-1795)は松阪の商家中川家の当主でありながら、書家としても活躍し、中国の拓本や法帖を蒐集した文化人です。本展では彼の書画作品とともに、その功績も紹介します。



【印判(韓天寿)】江戸中後期

【学芸員による展示解説】7/13(日) 11時より20分程度

松阪廣告百景  
8月5日(火)～9月28日(日)

伊勢参りの旅人で賑わい宿場町として発展してきた松阪の街は、江戸から昭和へと時代は変わっても、賑わいは衰えることなく、商店が趣向を凝らした看板や広告があふれました。本企画展では、明治期の引札や昭和期のチラシなどを紹介します。



【引札】明治頃

【ミニ講座】広告から見た松阪  
9/20(土) 10時より1時間程度

【学芸員による展示解説】8/23(土), 9/20(土) 11時より20分程度

## 原田二郎旧宅

原田二郎とその師たち  
4月29日(火・祝)～7月21日(月・祝)

原田二郎(1849-1930)は、実業家として活躍する一方で、多くの師から学びを受けました。本展では、久世安庭や大林省軒、佐々木弘綱、佐佐木信綱ら原田二郎の師たちに焦点を当て、彼らにまつわる品々を展示します。



【原田嘉朝集】昭和6年(1931)

松坂城主 古田重勝と弟重治  
7月24日(木)～9月28日(日)

古田重勝は、秀吉の命により文禄4年(1595)に松坂城主となります。重勝没後は、弟の重治が重勝の遺児希代丸(後の重恒)を立て、自らは後見人として補佐役に徹しました。本企画展では、松阪市内にのこる古田家に関する資料を展示し、古田家の足跡を紐解きます。



【古田重治書状】江戸初期

【学芸員による展示解説】8/16(土), 9/13(土) 11時より20分程度



NEWS

## —2025年春から初夏の催し報告—

春の訪れとともに、旧長谷川治郎兵衛家・旧小津清左衛門家・原田二郎旧宅を舞台に、地域の歴史や文化を感じていただける催しを開催しました。世代を問わず多くの方々にお越しいただき、松阪の魅力を再発見していただく機会となりました。

## 綿の種プレゼント(4/1～)



旧長谷川治郎兵衛家の庭で育てた綿の種を、来館された方へ配布しました。松阪木綿の歴史や、綿の文化に親しみきっかけとして、多くの方にお持ち帰りいただきました。

## 旧家で落語を聴こう(4/20)



旧長谷川治郎兵衛家で、落語会「旧家で落語を聴こう」を開催しました。趣のある空間に響く笑福亭生喬さんの落語の語り口は、風情と親しみを感じさせ、会場は笑い声に包まれました。来場者からは「旧家ならではの雰囲気で楽しめた」と好評をいただきました。

## GWイベント(4/26～5/6)

ゴールデンウィーク期間中、松阪市では旧家を巡るスタンプラリーや高校生による松阪もめん作品展、甲冑体験、缶バッジ作り、木版印刷体験(火用心・酒用心)、ミニ三味線ライブなど多彩な催しを旧長谷川治郎兵衛家・旧小津清左衛門家・原田二郎旧宅で開催しました。来場者は町歩きや体験を通して、松阪の歴史と伝統文化を楽しく学ぶひとときを過ごしました。

ミニ講座(5/3)  
「小津茂右衛門コレクションから見た松阪ゆかりの文人たち」

旧小津清左衛門家にて、小津茂右衛門家旧蔵の貴重な資料をもとに、松阪にゆかりのある文人たちの姿を当館の学芸員が紹介しました。歴史的な資料に触れながら、地域文化への理解を深める貴重な機会となりました。

講座(5/4)  
「絵葉書とレコードでたどる三越」

豪商のまち観光交流センターにて、当館学芸員による講座「絵葉書とSPレコードでたどる三越の歴史」が開催されました。百貨店・三越の歩みを、視覚と音でひもとく内容に、参加者は熱心に耳を傾けていました。本講座は、併設企画展「三越を見る・聞く」(4月9日～5月12日)と連動して実施されました。

(5/18)  
旧家で聴く初夏の朗読

旧小津清左衛門家にて、松阪お話キャラバンの皆さまによる絵本や紙芝居の朗読会を開催しました。子どもから大人まで幅広い世代が集い、物語の世界に浸るひとときをお楽しみいただきました。

